

# 自由世界の右腕 THE FN FAL BATTLE RIFLE

Report by Ken Nozawa 図版解説/鈴木健太郎

Cover Photo  
NARA  
© WORLD PHOTO PRESS 2024  
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

## CONTENTS

004 第73回 **サイゴン物語** Saigon Memories  
MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[22]

008 **ベトナムを遠く離れて——。**  
愛すべき.38口径リボルバー 文/小倉徹

040 **ベトナムで戦った  
オーストラリア軍の兵士たち**  
王立オーストラリア連隊編③

047 **[現用米軍装備カタログ]**  
2000年 米国海兵隊 FSBE(The Full Spectrum  
Battle Equipment)装備特集 PART3 解説/松原 隆

056 **ウエスタンアームズ新製品レポート**  
Report by SHOTGUN MARCY  
●ベレッタ M92FSブリガディア・エリート  
G10グリップVer.

059 **タナカ・ワークス新製品レポート**  
Report by SHOTGUN MARCY  
タナカ・ワークス  
●モデルガン SIG P226 Mk.25  
エボリューション.2/オールHW  
●ガスガン S&W M36 2インチ  
レディ・スミスHW Ver.2

063 **トイガンニュース**  
ウエスタンアームズ  
●コルト ニュー・エージェント リアル・ウッド・グリップ Ver.  
タナカ・ワークス  
●コルト SAA 2nd ゼネレーション5-1/2インチ  
ABSニッケル・フィニッシュ  
●S&W M10ミリタリー&ポリス2インチ.38スペシャル  
スクエア・バットHW Ver.3

068 **Militaria Roundup!**  
ベトナム戦争 アメリカ軍・ARVNとベトコンの軍装品

074 **東京マルイ**  
10歳以上向けのエアリアルボルバーPROシリーズ  
SAA.45 Cavalry 7 1/2インチCustom



079 **THE グリーンベレー  
GREEN BERET**  
特殊部隊CIF中隊特集 Part11 解説/DJちゅう

084 **ニッポンのちからこぶ** 写真・文/菊池雅之  
**Resolute Dragon24**

086 **サバゲ三等兵APS部**  
APS撃ちに行つたつもりが、P99FS CO2  
撃ってるのなんでだろ〜?(なんでだろ〜?)

088 **新製品情報 COMBAT mono**

### COMBAT FRONT LINE

046 JSC優勝記念 ヤスダ ミツキ氏独占手記  
62秒41の現在地  
078 今月の中田焦点! セスラーシリーズから  
あの名作が遂に発売! M-65ジャケット 初期型  
092 新作映画情報「ベイビーわるきゅーれ ナイスデイズ」  
「シビル・ウォー アメリカ最後の日」  
「サウンド・オブ・フリーダム」

091 レアミリタリーテクノロジー  
093 読者プレゼント & CIC  
094 バックナンバー  
095 次号予告&奥付

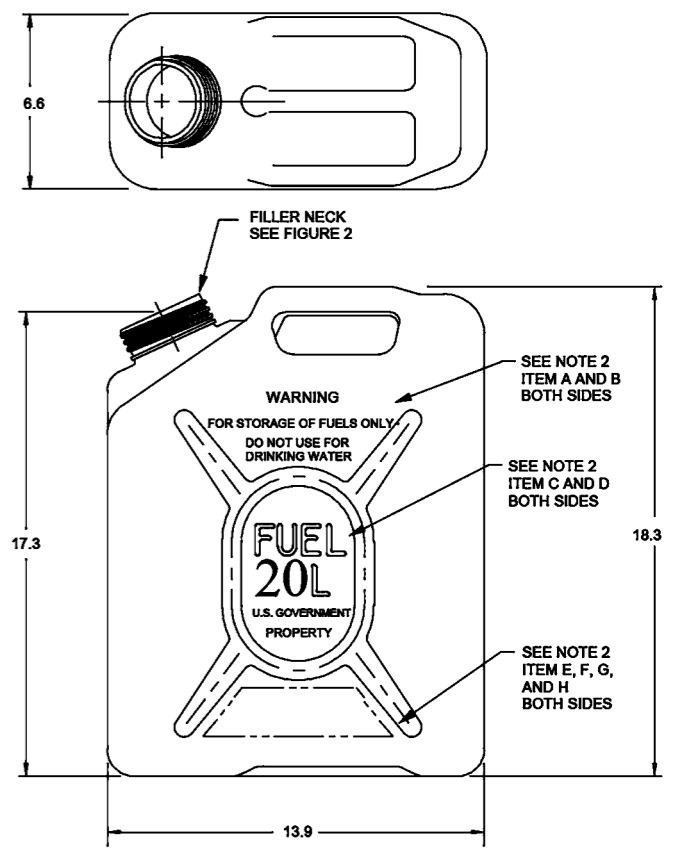


ミリタリースポッター

## The jerry can was originally designed in Germany.

It has three handles on top, making it durable and user-friendly, and it is now used worldwide as a fuel can. In Japan, it was likely first recognized as part of the image of U.S. military jeeps, which carried jerry cans during the occupation. In this photo, two jerry cans are strapped to the rear of an M1126 Stryker Infantry Carrier Vehicle. The illustration is from Military Specification A-A-59592, published in 1990."

ジェリカンはもともとドイツでデザインされた。上部に3本の持ち手があり、丈夫で使い勝手がよく、現在では世界中で燃料缶として使われている。日本では占領軍として駐留した米軍が、ジープにジェリカンを積んだ絵面として見知ったのが最初だろう。この写真では、M1126ストライカー歩兵輸送車の後部に、2個のジェリカンがストラップでホルドされている。図版は1990年発行のミルスベックA-A-59592より。 Photo/US Navy





# 自由世界の右腕

# THE FN-FAL BATTLE RIFLE

西側陣営の柱となる国々の思惑が何度も交錯する中で生まれたFAL。  
バトルライフルの傑作として今日も揺るぎない存在感を放つ理由は何なのか。  
このライフルが積み上げてきた実績と実力を様々な角度から検証する。

Report by KEN NOZAWA

図版解説 / 鈴木健太郎 Illustration / M.kelly

Photo / U.S.ARMY, USMC, USAF, Argentine Army, Brazilian Army, Australian War Memorial,  
the Dutch National Archives, Swedish Army Museum, Bouillant Achille, WPP Archive

アメリカが1983年に実施したグレナダ侵襲作戦 オペレーション・アーゼントフェューリーでアメリカ軍とともに戦ったOECS（東カリブ諸国機構）軍の兵士たち。彼らはFALで武装しており、細長いシルエットや大型の折りたたみ式キャリングハンドルなど、このライフルの特徴が良く分かる。OECS軍では全ての部隊でFALとあるいはFALのイギリス軍仕様、L1A1が用いられ、ここに写っているのは全て標準型である。

# THE FN FAL BATTLE RIFLE



ン付き軽機関銃仕様)、折りたたみストックのFAL 50.61、そしてパラトルーパーモデルの50.62/63 (折りたたみストックと432mm銃身)もバリエーションモデルとして製造されてきた。

FN社でもっとも成功した銃と呼ばれ「自由世界の右腕」として活躍してきたFN FALだが、1964年以降アメリカが5.56mm弾を新たな標準弾薬として採用し

たことで時代の変化に吞まれていくこととなる。より軽く、より制御しやすい火器として、M16、FAMAS、HK33などが台頭し始めたのだ。1976年にはFN社もFALに代わる次世代のアサルトライフルのFNCを開発している。

とはいえ、現在でもFN FALを採用している軍や警察は多く、過去にも、キプロス紛争、コンゴ動乱、キューバ革命、ベ

トナム戦争、フォークランド紛争など、数多くの戦場で主力火器として使用されている。

## バトルライフルの未来とアサルトライフルの今後

当初は“アサルトライフル”として開発をスタートさせながらも外力によって“バトルライフル”として完成したFN

標準型、あるいはメートル規格型と呼ばれるFALのラインナップ。上の2つのモデルが備えているフラッシュハイダーは1950年代の終わりに登場した古いタイプで、同じ時期にブローニング社によってアメリカに輸入されたFALに付けられていることが多い「ブローニングハイダー」という呼び名がある。銃身が短い空挺仕様はメートル規格型としては例外的とも言うべき折りたたみ式のチャージングハンドルを備えており、銃身長が45.8cmと43.6cmの2種類にさらに分かれるが、ここで写っているのは43.6cmの銃身を持つ「ベルギー空挺部隊仕様」と呼ばれるモデルで、彼らが降下に用いるC-119輸送機のドアに干渉しないギリギリの長さとなっている。2挺写っている火力支援型の違いは銃床の材質のみで、木製銃床を持つモデルは合成樹脂仕様より重い代わりにフルオート射撃時の安定性が高い。5挺のFALはどれもアッパーレシーバーに設けられていた段差が無くなっているが、これは強度を増すための措置で、FALのアッパーレシーバーは段差付きのタイプ1、段差が部分的に無くなったタイプ2、段差が完全に省略された写真のタイプ3に大きく分けられる。



**LIGHT AUTOMATIC RIFLE**  
Cal. 7.62 mm NATO  
No. FN 50-00

### FUNCTIONING

The L.A.R. is an automatic weapon with a fully locked system. It is gas-operated by intake from a point in the barrel, with gas escape regulator and piston.

FN社がアメリカ向けに作成したFALの広告。「LIGHT AUTOMATIC RIFLE」と英訳された名称表示となっているのが面白い。このFALはタイプ2のアッパーレシーバーを備えており、段差が部分的に無くなった特徴的なデザインとなっているのが分かる。タイプ2アッパーレシーバーは1962年に登場し、1973年頃からタイプ3へ更新された。



### MAIN FEATURES

WEAPON	
Overall length, without bayonet	1.09 m
with bayonet	1.25 m
Height, with magazine	.205 m
Weight, without magazine	4.25 kg
BAYONET	
Length	.29 m
MAGAZINE	
Capacity	20 rounds
Weight	
steel model, empty	.25 kg
steel model, filled	.73 kg
light alloy model, empty	.12 kg
light alloy model, filled	.6 kg
BARREL	
Overall length	.533 m

### SIGHTS

Length of the line of sight	.553 m
Backsight	
minimum	200 m
maximum	600 m
intermediate graduations for	300, 400 and 500 m

### FIRE

Type of fire	automatic semi-automatic
Cyclic rate of fire, in rounds per minute	650 to 700
Normal rate of fire, in rounds per minute	
automatic	120
semi-automatic	60
On request, the L.A.R. can be equipped with a change lever which does not permit automatic fire.	
Muzzle velocity	840 m/sec.
Muzzle energy	335 mkg

# ベトナムで戦った オーストラリア軍の兵士たち 王立オーストラリア連隊編③

ベトナム戦争におけるオーストラリア軍の活動を取り上げるシリーズ、  
今回は3RARの略称を持つ王立オーストラリア連隊第3大隊です。

文/鈴木健太郎 写真/AUSTRALIAN WAR MEMORIAL, WPPアーカイブ



王立オーストラリア連隊第3大隊の紋章。  
第3大隊はライフルグリーンを基調とした  
連隊紋章を与えられており、「Old Faithful  
(忠実なる古株)」という呼び名がある。

右手に制式ライフルのL1A1を下げ、鹵獲品の  
AK-47アサルトライフルを担いだ3RARの兵  
士。ベトナムではアメリカ軍のM16が初期不  
良に泣かされる中でAK-47が驚くべきタフネ  
スぶりを発揮したことが知られているが、  
L1A1もマラヤやボルネオでの戦いに投入さ  
れて十分な信頼性を確立しており、その力に  
疑問を抱く者はほとんどいなかった。



迎えに現れたUH-1ヘリのパイロットと交信する3RARの無線手。ヘリはアメリカ軍の所属で、無線手の後ろには搭乗準備を整えた兵士たちが写っている。

第1装甲連隊のセンチリオン戦車に跨乗して解放戦線の掃討任務にあたる3RARの兵士たち。戦車の揺れで紛失するのを防ぐためか、ここに写る兵士は誰一人ヘッドギアを着用していない。



UH-1に荷物を積み込む3RARの兵士たち。容器の表面を良く見るとWATERとモールドされており、中身は恐らく飲用水である。

休憩のために戦車から降りる3RARの兵士たち。敵の脅威は完全に排除されているようで、銃を持っている兵士は見当たらない。また彼らはこの休憩で腹ごしらえをするつもりなのか、腰を下ろした兵士の脇にはCレーションの箱が置かれている。



トラックの荷台に乗って輸送部隊を警護する3RARの兵士たち。全員がアメリカ軍から供与されたボディーアーマーを着用しており服装には統一感があるが、武器はL1A1ライフル、F1サブマシンガン、供与品のM16とバラバラなのが面白い。



# THE EQUIPMENTS OF THE U.S. FORCE

第203回 [現用米軍装備カタログ]

## 2000年米国海兵隊FSBE装備特集 part 3 The Full Spectrum Battle Equipment

●解説 / 松原 隆 ●撮影 / 山崎 学 ●協力ショップ / LAZY CAT、トイソルジャー、TRI'S (旧特工工房) ●協力 / 木島秀邦 ●実物画像 / SPECWARGEAR.COM

2000年頃から海兵隊MEUに納品されたFSBE (The Full Spectrum Battle Equipment) システム・キット。  
この中にはMICH TC2000ヘルメットや海兵隊オリジナルのロード・ベアリング・ベスト、各種CQB専用ポーチや  
MOLLE対応防弾ベスト等、当時の最新CQBE装備が入っていた……。2024年7月号からスタートした  
米国海兵隊 FSBE (The Full Spectrum Battle Equipment) 装備特集第3弾、装着例編です!





ロッキング・リセス部分を強化した耐久性の高いブリガディア・スライド。ベレッタらしいハイセンスなデザインも大きな魅力だ。



エリート1Aから引き継いだレールド・フレームを採用。フラットに加工されたトリガー・ガード前面、厚手になったレール部分など、フレーム側もスライドに呼応するタフなイメージにデザインされている。

スライド先端に合わせてバレルをカットしたブリガディア・エリート。実測で5mm前後の差だがベーシックなM92FSに比べてかなりコンパクトな印象を受ける。

スクエア・タイプのトリガー・ガード、バック・ストラップとフロント・ストラップに刻まれた深いチェッカー、M92G-SDタイプの

ながら、破損そのものを防止するスライド・デザインを採用している。破損の主な原因とされた、ロッキング・ラグが噛み合うリセス部分を厚く残して強度を向上させた強化スライドは、ベレッタ初のショートリコイル・モデルM1951の商業・ネームだった「ブリガディア」にちなんで「ブリガディア・スライド」と命名され、1994年7月に「M92ブリガディアFS」でシリーズがスタートした。

ブリガディア・エリートは、携帯性とファースト・ドローを考慮した4.7インチのアウトバーレルを組み合わせたCQBタイプのバリエーシ

ョン。スクエア・タイプのトリガー・ガード、バック・ストラップとフロント・ストラップに刻まれた深いチェッカー、M92G-SDタイプの

バレルの強いコントラストが、鮮烈な印象を残す1挺だ。蓄光材を埋め込んだフロント・サイト、ノバック・タイプのリア・サイト、ラージ・ヘッド・タイプのマガジン・リリースボタンなど、M92FSブリガディアならではのパーツを組み合わせた“ベレッタM92FSブリガディア・エリート”。外観にもパーツにもタクティカル・テイストが漂うこのM92FSを、新たなベレッタ・コレクションに加えよう!!

リア・サイトはタクティカル・モデルにベストマッチのノバック・タイプ。スライドにセットされたアンビ・タイプのセフティ・レバーは、信頼性の高いデ・コッキング機能を兼ね備えている。

ダブテイル・スリットに嵌め込まれた大型フロント・サイトは蓄光材を利用したホワイト・ポイント・タイプ。サイト後面に反射を防ぐセレーションも追加されている。

# BERETTA M92FS BRIGADIER ELITE G10 GRIP Ver.



**TANAKA WORKS**

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY  
◎タナカ・ワークス  
<https://www.tanaka-works.com>

# SIG P226 Mk.25 Evolution.2 **MODEL GUN** ALL Heavy Weight *and* S&W M36 2inch “Lady Smith” **GUNGUN** Heavy Weight Ver.2

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様異なる場合があります。





# Militaria Roundup!

## ベトナム戦争 アメリカ軍・ARVNとベトコンの軍装品

来年で終結から50年を迎えるベトナム戦争。かつては豊富に出回っていたアメリカ軍の出品も今では希少な存在となった。その中で精力的に当時の軍装品の販売と複製品の製作を続けるサムズミリタリ屋。今回は同社が新たにベトナムで発掘したミリタリアを始めとする、当時の軍装品を紹介しよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格

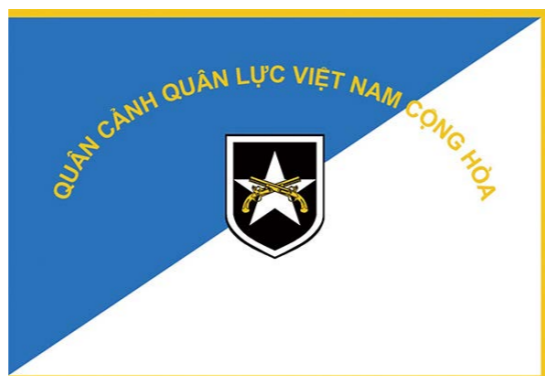
撮影協力/サムズミリタリ屋 ☎03-6680-4648 <https://www.sams-militariya.com>, MASH☎06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>

### 南ベトナム軍憲兵ヘルメット

“クアン・カーン (Quan Canh/QC)” と呼ばれる南ベトナム陸軍憲兵隊は1953年にフランス軍憲兵隊 (Gendarmierie) の一部として設立され、メンバーは歩兵科の優秀な下士官から選ばれた。そして55年に再編成されてフランス軍から独立し、61年に南ベトナム軍の正式な組織となっている。

QCの任務は軍法と治安の維持、そして交通管制で、訓練と教育機関 (憲兵学校) はアメリカ軍憲兵隊のそれをモデルにしていた。そしてベトナム戦争初期には、アメリカ陸軍の憲兵が顧問として配属されている。QCは軍の優秀な人材で構成され、将校は大学教育を受けていることが必須だった。そして選抜された将校はアメリカの憲兵学校 (ジョージア州フォート・ゴードン) に派遣されて専門的訓練を受けている。

ここで紹介する南ベトナム陸軍憲兵のヘルメットは戦争終結後に軍用品倉庫に保管されたもので、最近になって軍用品の海外持ち出し禁止措置が解除されたことで入手可能となったもの。ちなみに高温多湿のベトナムの気候でチンストラップとライナーが劣化していたため、サムズミリタリ屋ではそれらを交換して販売している。



**南ベトナム軍憲兵隊軍旗**  
ベトナム戦争中の南ベトナム軍憲兵隊はアメリカ軍憲兵隊の影響を強く受けており、交差したピストルの憲兵徽章はアメリカ陸軍憲兵章と同じデザインを使用している。



**憲兵 (QC) ヘルメット**  
正面にベトナム語で憲兵を意味する “QC”、そしてアメリカ陸軍のMPヘルメットと同様に帯が描かれた南ベトナム軍の憲兵ヘルメット。アメリカ陸軍MPでは帯の色が編成規模で異なり、師団が赤、軍団が青と白、軍が白と赤、それ以外が白だが、南ベトナム軍が同じシステムだったかは判然としない。(撮影協力: サムズミリタリ屋/VN戦 南ベトナム軍ヘルメットCQ (憲兵) /価格 3万7400円)

ヘルメット側面には白丸が描かれ、そこに所属を表す部隊番号等を記入。中には無記入やレンジャー部隊章を描いたものも存在している。写真のものは交差した小銃と剣、そしてヘルメットを組み合わせたマークが描かれているが、詳細は不明。アメリカ陸軍では服装規定でMPヘルメット側面のマーキングは右が白丸に部隊章、左に部隊番号としているが、ここで紹介する南ベトナム軍のヘルメットは左右同じ。



**交通憲兵 (TS) ヘルメット**  
こちらは交通憲兵を表す “TS” の文字を描いたヘルメット。このヘルメットは治安任務のため、一時的に憲兵部隊に配属された非憲兵部隊の兵士が着用したもの。このほかに “KS” の文字を描いたものも存在するが、こちらは軍人と民間人の混成からなる軍官警察隊 (フランスでみられる形態で、行政、司法、軍事における警察業務を担当) が使用したといわれる。帯の色が3段になっているが、これはアメリカ軍MPには見られないマーキング。(撮影協力: サムズミリタリ屋/VN戦 南ベトナム軍ヘルメットTC)

### ヘルメット・アクセサリ

ベトナム戦争当時の記録写真を見ると、当時のアメリカ兵は様々な装備をヘルメットのカモフラージュ・バンドに挟んで携行しているのに気が付く。これは使用頻度の高いアイテムにすぐ手が届くようにするための配慮だが、他の戦争では見られない一種のファッションでもあった。ただし海兵隊ではヘルメットのカモフラージュ・バンドを使用しないのが一般的で、ヘルメットに物を挟むのは主に陸軍となっている。

### LSA ウエボン・オイル・ボトル WEAPON OIL MEDIUM

ここで紹介する銃器用潤滑油のボトルはLSA ウエボン・オイルの4オンス用で、LSAは洗浄、酸化防止、腐食防止剤を配合した石油ベースの潤滑油。ベトナム戦争で使用されたM16ライフルのトラブルの一因となったのが陸軍の支給した小火器用の潤滑油だったが、LSAはそれによるトラブルを解決したもので、M16にとって最適と評されている。

ここで紹介するLSAのボトルは容量が4オンス (約120ml) だが、初期のボトルは色が白で容量も半分の2オンスだった。またM16ライフル用のクリーニング・キットには容量1/2オンスのLSA用ボトルが付属している。ボトルに記されたLSAのアイテム名は最初 “Weapon Oil Medium (銃器用 中サイズ)” だったが80年代 (?) から “Lubricating Oil Semi-Fluid (半流体潤滑油)” に変更された。「半流体」の名が示すようにLSAの粘度はオイルとグリースの中間。LSAは石油ベースのため低温では粘度が増すため、80年代には寒冷地向けのCLP (Cleaner Lubricant Preservative/洗浄、潤滑、防腐剤) が導入され、LSAと併用されている。

### 虫除け剤 (モスキート・ジュース) INSECT REPELLENT (MOSQUITO JUICE)

ベトナム戦争中に兵士たちから “モスキート・ジュース” と呼ばれた虫除け剤は、2オンス (約60ml) のポリ製ボトルに入れて支給された。初期の虫除け剤のボトルは白だったが、ヘルメット・バンドに挟むと戦場で目立つという問題があった。このためウエボン・オイルのボトルと同様、色をオリーブ・グリーンに変更している。

使用方法はボトルを振って手のひらに12滴取り、両手をこすり合わせて露出した肌にも薄く塗るというもので、目や唇に付けないように注意する。当時の兵士によれば「無臭だが、ベトトリとしていて、まるでオイルを塗りつけている感触だ。皮膚呼吸が出来なくなった顔からは、脂汗が流れ落ちてくる。それにして効果はあった」(横内仁司「ドッグ・タグ」角川書店) とのこと。またモスキート・ジュースは以外な用途にも使用されたが、それはMCIの缶詰の過熱用だった。これは虫除け剤の成分にエタノール (アルコール) が含まれているのが理由で、不人気だったMCIのピーナツバターに振りかけて火をつけた。ある兵士は家族への手紙に「知ってる通り、ピーナツバターは燃えるし、防虫剤はゆっくり燃える — 両方あわせると約十分間燃え続ける。大したものだよ。」(バーナード・エデルマン編 中野理恵監訳「ディア アメリカ 現代書館」) と書いている。



ウエボン・オイルと同様に虫除け剤のボトルは白だったが、ヘルメット・バンドに挟んで携行すると目立つため、しばしば敵狙撃兵の標的となった。このためボトルの色は戦場向けにオリーブ・グリーンに変更され、視認性は大幅に低下している。



こちらはボトルの色がオリーブ・グリーンの後期タイプ。ウエボン・オイルでは注意書きが黄文字だが、虫除け剤では黒文字 (読みづらい) を使用。虫除け剤の成分はメタルアミド、ジメチルトルアミド等の虫除け有効成分と、化粧品にも使用される変性エタノール (工業用エタノールの飲食用転用防止のため変性剤を添加したもの)。



ベトナム戦争中のアメリカ陸軍兵士は、ヘルメットのカモフラージュ・バンドに様々なアイテムを挟んで携行することが多かった。ここでは、M16ライフルの20連マガジン、MCIレーション同梱のタバコと、トイレットペーパーが確認できる。(Photo:U.S. Army)

今回サムズミリタリ屋に入荷したのは色がオリーブ・グリーンで容量4オンスのタイプ。オリーブ・グリーンのボトルには黄文字で注意書きが入れられたが、今回紹介のものでは経年によって消えている。注意書きの内容は「詰め替え可能」「よく振ること」そして「この潤滑剤をフードプロセッサーや食品加工機に使用しないこと。潤滑剤が付着して食品を汚染する」というもの。(撮影協力: サムズミリタリ屋/VN戦 米軍ヘルメット・アクセサリC: LSAオイル/価格 4180円)



**M16ライフル用  
クリーニング・キット**  
M16ライフルのバットストック (銃床) 内にはクリーニング・キットを収納したが、その中には容量0.5オンス (約15ml) のボトル (矢印) が含まれていた。



こちらはボトルの色がオリーブ・グリーンの後期タイプ。ウエボン・オイルでは注意書きが黄文字だが、虫除け剤では黒文字 (読みづらい) を使用。虫除け剤の成分はメタルアミド、ジメチルトルアミド等の虫除け有効成分と、化粧品にも使用される変性エタノール (工業用エタノールの飲食用転用防止のため変性剤を添加したもの)。

今回サムズミリタリ屋に入荷したのはボトルの色が白の初期タイプで、経年によって注意書きは消えている。(撮影協力: サムズミリタリ屋/VN戦 米軍ヘルメット・アクセサリB: モスキート・ジュース/価格 4180円)

# BBエアーリボルバーPRO SAA.45 Cavalry 7 1/2inch Custom



Photo & Text by Takeo Ishii  
東京マルイ ☎03-3605-1113  
www.tokyo-marui.co.jp

## シリーズ最長7 1/2インチ銃身キャバルリー(騎兵)モデルのゴージャスなカスタム

10歳以上用(=0.135J以下)パワーながら飛距離・操作性ともに実用性充分なエアークッキング・リボルバーで、あの「西部の拳銃」=ピースメーカーならではの操作と楽しさを追求するエアーリボルバーPRO/SAA.45シリーズに、軍用拳銃への原点回帰たる長銃身ド迫フォームと華麗なるアレンジを加えた大胆不敵な第3弾モデルが登場!

スラリと長い7.5インチバレルが存在感抜群! カートリッジ先端とシリンダー前面はほぼ面(ツラ)位置で、インナーバレル後方パッキンと密着しエアを漏らさない仕様はシリーズ共通。

バレル上面には軍用SAA.45の特徴だったコルト社名と所在地の刻印。バレルと平行に取り付けられたイジェクターロードも実銃同様に機能し、カートリッジを押し出せる。

び30m先にまで到達する。シューティングマッチやサバイバルゲームで使用するなら直進性に優れた0.2g BB弾の出番だが、可変HOP-UPの搭載でこちらでもきめ細かい調整が可能。そう、「徹底的に遊べるSAA」なのだ。

新たにモデルアップされるキャバルリー カスタムは1870年代当時に「理想の軍用拳銃」を追い求め完成されたSAA.45の迫力あるオリジナル・フォーム=7.5インチ銃身を再現しつつ、多くのマカロニウェスタン映画で鮮烈な印象を残した金色に輝く

(=0.135J以下)ながら、飛距離・命中精度・操作性ともに実用性充分な製品としてまとめあげたのが東京マルイ/エアーリボルバーPROシリーズだ。0.12g BB弾だとHOP最弱でもしっかりスピニングが掛かって遠くまで飛

プラス(真鍮)フレームや、焼き入れされた鋼鉄色のケースハードウ・ハンマーを質感バツグンの特殊塗装で再現した意欲作。木目がリアルなウッド調グリップも相まって、シリーズ随一の存在感、ゴージャス感!

アーティラリーやシビリアンを既に持っているSAAファンはもちろんだが、このキャバルリー・カスタムだけを最初に見たビギナー・トイガンファンのハートにも、グッと深く突き刺さるだけの魅力と輝きが、この銃にはある!



- SAA.45 キャバルリー 7 1/2インチ カスタム**
- 全長: 330mm
  - インナーバレル長: 70mm
  - 重量: 446g (※カートリッジ込)
  - 装弾数: 6発
  - 動力源: コッキング式エア、10歳以上用
  - 可変HOP-UP搭載
  - 平均初速: 34m/秒=約0.116ジュール (※ファインストBB弾0.2g使用、気温28℃、湿度50%)
  - 近日発売・価格未定

## 軍用SAAの原点たる長銃身+華麗なるブラスフレーム

SAA (=シングルアクション・アーミー).45の実銃は1973年に生産が開始され、7 1/2インチ銃身を備えた「キャバルリー(騎兵)」モデルが米軍に制式採用された。強力な弾薬に耐える頑強なフレーム構造を持ち壊れにくく、米軍での任務のほか西部

開拓時代にも広く普及し、まさに今日のアメリカ国家を築き礎となった拳銃とも言われ「ピースメーカー(=平和の創造者)」の別名は今日に至っても世界中に轟いている。そんなSAA特有の操作法のリアルさ、楽しさを実現し、10歳以上用

フレーム下部スクリューの1つに「ASGKセフティ」の機能があり、フルコック状態で左側から押し込む事でON(=発射できない状態)となる。右利きの人ならトリガーフィンガーで操作しやすい位置なのも良い。



歪みをなくすため内蔵された金属製内部フレームの効果もあって、グリップ内エアシリンダーのスプリングを圧縮している割には軽く起こせるハンマー。キャバルリーカスタムでは「焼き入れされた鋼鉄」をイメージした特殊塗装がなされている。

可変HOP-UPの調整はシリンダーギャップから覗くダイヤルのギザギザに付属の「HOP調整ツール」を引っ掛けて行う。「0.12g BB適正」~「0.20g BB適正」まで半周ほど動かせる。



製品に付属してくるカートリッジはヨコ型のケースに入っているが、別売品はタテ型パッケージだ。

●SAA.45用スベアカートリッジ(6発) 3,278円

「.45ロングコルト弾」とほぼ同サイズのカートリッジは6発で約45gの重量となり、シリンダーに程よいトルク感を与える。ノズルでカートリッジ中央が押されると弾頭部が飛び出し、HOPパッキン後部に密着する。







月刊

# THE GREEN BERET

vol.63

## SPECIAL FORCES CIF COMPANIES

### Part 11

文・イラスト/DJちゅう  
写真/U.S.ARMY

## 特殊部隊CIF中隊特集パート11

過去10回に渡って特集してきたCIF。今月号でついに感動のフィナーレです！ いやあ、あつという間ですね。1年間くらい続けていた特集なので感慨深い限りです。最後となるパート11では過去のCIF特集をぎゅっと凝縮。もちろん詳細は過去の各パートを読んで頂きたいのですが、CIFに関するポイント

を簡潔にまとめていますので、このパートだけ読んでもCIFの全体像が分かる&興味が湧くようになっています。項目ごとにパートを振っていますが、この割り振りは過去のCIF特集の各パートと連携していますので、もっと詳しい情報を読みたい方はバックナンバーを紐解くインデックスとしてご利用くだ

さいまし。皆さんのグリーンベレーライフのお供にして頂けたらこれ幸いです。またいつかCIFに関する新しい情報などありましたら当連載でご紹介するつもりです！ そしてDJちゅうは変わらずグリーンベレーが大好きなので本連載「月刊グリーンベレー」は今後も続きます！ お楽しみに〜！

**参考文献** AMERICAN SPECIAL OPS [Special Forces Cif Companies], jackmurphywrites.com [SPECIAL FORCES TO DISBAN THE COMMANDERS-IN EXTREMIS-FORCE(CIF) ], THE WARZONE [ The Army Is Training Specialized Companies Of Green Berets To Crack "Hard Targets" ], HIGHSIDE [Revenge on the CIF - How "The Haters" Cut Special Forces' Last Link To JSOC], SOFREP [Blue Light Part 1 ~ 9]: From the Special Forces, America's first counterterrorism unit] [This long-forgotten unit was the direct predecessor to Delta Force] [Special Forces direct-action training on Fort Bragg], COFFEE OR DIE [DETACHMENT-A: HOW SPECIAL FORCES SOLDIERS OPERATED UNDERCOVER IN COLD WAR BERLIN], DETACHMENT-A.org, WE ARE THE MIGHTY [This top secret Green Beret unit quietly won the Cold War], THE Fayetteville Observer [Clandestine Cold War unit honored at Fort Bragg]

